

## 第3学年1組 国語科学習指導案

- 1 日時 平成28年 1月 26日(火) 第5校時
- 2 単元 心にひびいたことを中心に、感想を交流しよう
- 3 教材 「モチモチの木」 作：斎藤隆介 (国語光村3年下)  
斎藤隆介作品(「八郎」「三コ」「半日村」「花さき山」など)
- 4 人権教育の内容 3-(2)-ア 人間関係の活性化

### 5 指導にあたって

○「モチモチの木」は語り継がれてきた民話そのものではないが、素朴な語り口調を通して、ほのぼのと温かい人間性を描いた創作文学である。また、語り手の心情描写がいたるところにあり、読み手が共感を持ちながら作品世界に浸っていける作品である。

作者である斎藤隆介は特異な表現を駆使して、主人公豆太を見事に描かれている。特に豆太の内言には、「一」や「・・・」などのダッシュ、「！」の感嘆符などが使われているなど、視覚的にも豆太の葛藤が読み取れる。また、情景描写も優れており、人物の心情の高まりを、句読点を使い分けて表している。そのため、子供たちが読み深めていく力をつけるのに適した作品である。

また、いかにも貧しい猟師小屋に住むじさまと豆太の心の通い合いをほのぼのと温かく描いてそれぞれの人間のやさしさを浮き彫りにしている。そんなやさしさが力となり勇気となり、人間の底力を生み出すという作品の思想がひしと読み取れる。

○子供たちの多くは、国語学習に向かう姿勢は、真剣で意欲的である。しかし、学年当初発表や音読の声は小さく、発表は単発的なものであり、話すための語彙力の不足と話す自信に欠けるため発表に個人差があった。言葉からイメージが豊かに広がらず、自分の考えがもちにくい子供にとっていかに学年相応の表現力を培っていくかが課題であった。

そこで、「ちいちゃんのかげおくり」の学習では、一人ひとりの読みを大事にするために『書き込み学習』(一人読み)に力を入れ、ちいちゃんの行動や気持ちをたどりながら、読み進めていった。さらに、「島ひきおに」の学習では、一人ひとりが課題をもち、自分や友達はどんな課題をもっているのかを知った上で、授業をスタートさせていった。主題に迫る読みをするために、一人ひとりの課題から中心課題を見つけ、自分たちの課題が授業構成の中核を担っていることを意識させていった。『書き込み学習』を通して、言葉や文に注目して自分の思いや読みをもち、それを素直に出し合って話し合う力も育ちつつある。

また、子供たちは音読が大好きである。自分の声を響かせたり、友達の声と響き合わせたりすることに、心地よさを感じるようになる子も増えてきた。読み取ったことを自分なりに表現読みしようとする姿勢も育ちつつある。一見、無表情に座っている子もするどい感性を持っている。理屈では説明できない子供の感性が表現読みとして表出した時、言葉のイメージは広がり、感性に響き合う。

しかし、全員が発表し、主題に結びつく重要な場面で立ち止まって全員が話し合い、読み深めていくことはなかなか難しい。言葉を手掛かりに、人物の心情を読み取る力や、一つの言葉からさまざまに思いを広げていくことは個人差が大きい。そのため、本教材でも、子供たちは豆太の弱さに共感を覚え読み進めるだろう。夜にはモ

チモチの木を見ることができない豆太が、じさまを助けるために必死に走る姿には共感できるであろう。しかし、泣き泣き走る豆太の心の葛藤は読み取ることは難しいであろう。また、元気になったじさまの話聞く豆太が、はじめとは一味違った成長の兆しをもっていることにも気づかないであろう。

○そこで、一人調べは豆太の心の葛藤が分かる言葉を見つけ、その心の揺れを丁寧に読み取っていきたい。深い信頼を寄せるじさまとの心のつながりを抑えながら、なんとか臆病から抜け出したい豆太の願いに気付かせておく。医者さまを呼びに行く豆太の思いに迫るために、半道もの夜道を走り続ける姿を詳しく想像し、その心の葛藤を読み取らせたい。そして、泣き泣き走る豆太のけなげな姿は、人間のやさしさを裏返した強さであることを読み取らせたい。じさまの細やかな愛情に包まれている豆太は、じさまの苦しみに死の危機を感じ、じさまへの愛が「やらなきゃならねえこと」をやらせたのである。「やさしささえあれば・・・」というじさまの言葉を聞く豆太の心の成長と自分とを重ね合わせて考えさせ、子どもたちに「人間のやさしさ」について考えさせたい。

また、豆太の心情や様子が文章の表記として顕著に表れているところや、多くの挿絵が用いられているところから、子供たちが物語へより浸っていけるように、今回は絵本を用いて学習を進めていく。

斎藤隆介の作品に出会うことによって、作者の作品の底に流れている「やさしさ」について考えさせたい。「感想カード」を使って心に響いたことを交流し合うことによって感性をより豊かなものにしていきたい。

## 6 単元目標

- ・読んで心にひびいたことを伝えるために、本を繰り返し読むなどして、改めて味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・斎藤隆介の作品を読み、登場人物の会話や行動などの叙述に着目して、心情の変化を想像しながら読んだり、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いたりすることができる。(読む)
- ・言葉からイメージを詳しく自分の言葉で言い換え、自分の考えを持つことができる。(言語)
- ・作品の感想を紹介する中で、自分の思いを相手に伝えることができるようにする。

## 7 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 話す・聞く能力	エ 言語についての 知識・理解・技能
・斎藤隆介の作品に興味をもち、進んで読んでいる。	・会話や行動、様子を表す叙述に着目し、複数の叙述を関係付けて性格をとらえている。 ・文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えが、一人一人違いがあることに気付いている。	・友達の考えを聴き、自分の考えを伝えられている。	・語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。 ・人物の性格を表す語句を増やしている。

8 単元の指導と評価の計画（全13時間）

次	時	学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準と（評価方法）
<b>心にひびいたことを中心に、感想を交流しよう</b>				
第1次	1	○「心にひびいたことを中心に感想を交流する」という学習課題を知る。 ○感想カードの見本を知り単元の見通しをもつ。 ○範読を聞き初発の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師による「感想カード」を用いて感想（「お手紙」作：アーノルドノーベル）を聞き、作ってみようとする意欲を高める。</li> <li>読んだ感想を交流したい絵本を見つけるために、齋藤隆介の絵本の先行読書をする。</li> </ul>	<p>範読を聞き、感じたことや課題を書いている。</p> <p>（感想用紙の分析）</p>
	2	○全文を読み、心にひびいたことを出し合って課題をもつ。 ○語句について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>何度も読むことを楽しめるよう音読の工夫を行う。</li> <li>場面での意見を整理しやすいよう挿絵をもとに板書で整理していく。</li> </ul>	<p>読んで心にひびいたことを発言し課題を見つけている。</p> <p>（発言の観察）</p>
	3	○登場人物のことがよくわかる言葉や文を見つけ、書き込み（一人調べ）をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに考えを書き込む。</li> <li>豆太やじさまの人柄に注目する。</li> </ul>	<p>登場人物がわかる言葉や文に線を引き、考えを書いている。</p> <p>（ワークシートの分析）</p>
	4	○「～の豆太」と場面ごとに小見出しを考え、課題意識を持つ。 ○工夫して音読練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の言動から人柄を捉えていく。</li> <li>挿絵をもとに意見を板書で整理し、どの場面が捉えられるようにする。</li> </ul>	<p>場面ごとに豆太の様子を捉え小見出しをつけている。（小見出しの観察）</p>
第2次	5	○「まったく～おくびょうなんだろうかー。」の場面を読み、二人の人柄と関係性を捉える。 ○豆太のおくびょうぶりを読み取り、どうしても一人でセツチンに行けない心情を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜中に一人でセツチンに行けないことやじさまと峠の猟師小屋に暮らしていることなどを捉えるようにする。</li> <li>豆太はじさまのことを頼りきっていること、じさまはそんな豆太がかわいくて仕方がないことを捉える。</li> </ul>	<p>おくびょうな豆太の様子や状況について読み取っている。</p> <p>（発言の観察、ワークシートの分析）</p>
	6	○「モチモチの木ってのはな、～そうしなくっちゃダメなんだ。」の場面を読み、じさまの深い愛情に支えられて、虚勢をはったり甘えたりする豆太の心情を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に学習したことを教室に掲示しておき、場面のつながりが捉えられるようにする。</li> <li>昼と夜の豆太の、モチモチの木に対する態度を比べて読むことで、その違いに迫る。</li> </ul>	<p>モチモチの木に対する豆太の態度を読み取っている。</p> <p>（発言の観察、ワークシートの分析）</p>

	7	○「そのモチモチの木に～ねてしまった。」の場面を読み、「勇気のある子どもに」というじさまの願いを感じ取り、揺れる豆太の心情を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 豆太はおくびょうだという決めつけではなく、「自分も見なかった」「ひるまだったら」という叙述にも注目させ、豆太の心の葛藤にも捉えさせたい。</li> <li>• それでも、やっぱりおくびょうだということにも目を向ける。</li> </ul>	豆太の心の揺れを叙述をもとに読み取っている。(発言の観察、ワークシートの分析)
	8 (本時)	「豆太は、真夜中に～なきなきふもとの医者様まで走った。」の場面を読み、じさまを助けるために峠の霜道をたった一人で走り抜く豆太の必死の様子を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 豆太の行動描写を読み取った上で、豆太の心情へ迫る。</li> <li>• 豆太は勇気ある子へと変わったのかということ「なきなき」や「こわかった」という表現にも注目する。</li> </ul>	豆太の行動を読み取っている。(発言の観察、ワークシートの分析)
		「これも、年よりじさま～いそがしかったからな。」の場面を読み、モチモチの木に灯がついたが、じさまへの心配の方が大きい豆太の心情を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• モチモチの木に灯がついたのは、豆太自身の成長でもあるということにも迫る。</li> </ul>	豆太の成長について読み取っている(発言の観察、ワークシートの分析)
	10	「でも、次の朝～じさまを起こしたとサ。」の場面を読み、じさまと豆太のやさしさについて話し合うことを通して、主題に迫る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ここぞという時に自分の力を出し切る原動力となるやさしさは、じさまが日々育ててきた「愛情」であることに迫る。</li> </ul>	豆太のやさしさは、じさまからのやさしさが密に関係していることを読み取っている。(発言の観察、ワークシートの分析)
第3次	11	「モチモチの木」を読んで一番心にひびいたことを中心に感想カードを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今まで書いてきた感想シートを手掛かりに、一番心にひびいたことを選ぶ。</li> </ul>	心にひびいたことを中心に感想文を書いている。 (感想文の分析)
	12	(読書カードにためた中から)自分で選んだ斎藤隆介作品の本の感想カードを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 読書カードからみんなに読んで心にひびいたことを聞いてほしい本を選ぶ。</li> <li>• 感想カードに心にひびいたことを書く。</li> </ul>	
	13	「感想カード」を使って自分が選んだ本の感想を、心にひびいたことを中心に交流し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教師が紹介して見せ、「感想カード」を使った交流の仕方を確認する。</li> <li>• 「モチモチの木」を「感想カード」を使って、グループで紹介してから、自分の選んだ本の紹介をする。</li> </ul>	友達と交流し合い、感じ方や考え方に違いがあることに気付いている。(交流、発言の観察)

9 本時の展開（8/13 時間目）＜第2次第8時＞

ア 目標 じさまを助けるために、今までからは考えられないほどの勇気を奮い立たせた、豆太の心情を読み取る。

たくさんの友達と交流し、自分の考えを言ったり、友達の考えを聞いたりすることができる。

イ 展開

学習活動と内容	指導上の留意点	評価
<p>1、本時の課題をつかみ、豆太の走る姿を想像し、豆太の心情を考えながら音読する。</p>	<p>○時間帯は真夜中であることや峠の冷え込み、語句についても確認しておく。</p> <p>・うなる    ・表戸    ・霜</p>	
<p><b>おくびょうな豆太が、医者さまを一人でよびに行くことができたのはなぜだろう。</b></p>		
<p>2、じさまの苦しみに死の危機を感じ自分で鋭く勇断した豆太の姿を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クマのうなり声</li> <li>・「ジサマァッ〜〜！」</li> <li>・「ジサマッ！」</li> <li>・「イシャサマオ、ヨバナクッチャ！」</li> <li>・小犬みたいに体を丸めて</li> <li>・表戸を体でふっとばして</li> <li>・ねまきのまんま</li> <li>・はだして</li> <li>・半道もあるふもとの村まで</li> </ul>	<p>○熊のようなうなり声ではなく、お父が殺されたあの恐ろしい熊のうなり声であったことからいかに恐怖であったかを掴む。</p> <p>○「ジサマァッ〜〜！」と「ジサマッ！」と呼び方が違うことを掴み、豆太が何に対してそのような呼び方になっているのかを捉える。</p> <p>○じさまが死ぬかもしれないという危機を直感し、その行動がとっさのことであり、ものすごい勢いだったことを捉える。</p> <p>○豆太の心の中で、自分で決断した強い思いであることを読み取る。</p>	
<p>3、半道もある道のりを、なぜ一人で走り抜けたのかを考え、走りながら言った心の叫びを探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なきなき走った→霜が足にかみついた。血が出た。</li> <li>・なきなきふもとの医者様へ走った→じさまの死</li> <li>・じさまの死んじまうほうがもっとこわかったから</li> </ul>	<p>○「なきなき走った」のリフレインに注目して違いを考え、寒くて痛くて怖くても、じさまを死なせたくない一心でいる豆太の心情に気付く。</p> <p>○ここぞという時に自分の力を出し切る原動力となる“やさしさ”は、じさまが豆太に日々育んだ愛情であり、その愛をたっぷり受けて大きくなった豆太の中に蓄えられている力であることを捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じさまを死なせたくない豆太の気持ちに共感している。</li> </ul>
<p>4、心にひびいたことを中心に感想を書き、友達と交流する。</p>	<p>○感想を書いた後自分の感想カードに貼り、友達と交流する。</p> <p>○たくさんの友達に考えを話したり聞いたりできるよう声をかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に響いたことを中心に感想を書いている。</li> <li>・一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。</li> </ul>